

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20520566

研究課題名(和文) 東大寺文書燈油田大湯屋田関連史料をケースとした巨大中世史料群の構造解析方法の探究

研究課題名(英文) Inquiry into the method of the structural analysis of huge historical archives in medieval Japan. (research into Toyuden and Oyuya documents in the documents of Todaiji-temple)

研究代表者

遠藤 基郎(ENDO MOTOO)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：40251475

研究成果の概要(和文)：

巨大中世史料群の構造を、適確に理解するための方法論の探求を課題とした。東大寺文書の中の燈油田・大湯屋田関連史料をモデルケースとした。『大日本古文書東大寺文書之 21』の編纂を通して、史料の構造を考察した。複数の伝来文書によって構成されることが明らかになった。東大寺図書館以外に存在する東大寺文書について調査した。その成果は、東京大学史料編纂所の DB などを通して公開した。

研究成果の概要(英文)：

This project is aimed to inquire into the method of the structural analysis of huge historical archives in medieval Japan. We try this project on case of Toyuden and Oyuya documents in the documents of Todaiji-temple. We researched the structure of this document with compiling *Dinihonkomonjo Todaijimonjo vol.21*. It makes clear that Toyuden and Oyuya documents are constructed of some different historical archives. We investigated the other documents of Todaiji-temple that was collected at other institutions. That result is published on the on-line database of HI(Historiographical Institute The University of Tokyo).

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	1000 千円	300 千円	1300 千円
2009 年度	600 千円	180 千円	780 千円
2010 年度	500 千円	150 千円	650 千円
年度			
年度			
総計	2100 千円	630 千円	2730 千円

研究分野：日本中世史

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：東大寺文書、東大寺燈油田、寺院史料論、中世後期東大寺史、東大寺油倉、中世大和

1. 研究開始当初の背景

史料群ごとの大まかな概要をつかみ、俯瞰した上で歴史的事実を探究する方法が有効であることは、すでに中世菅浦文書を分析し

た田中克行『中世の惣村と文書』(山川出版社、1998 年)などで示されたとおりである。近年の中世文書・史料研究でもこうした方法が定着している。

ただし、この全体を俯瞰するという方法は、史料群を構成する文書・史料点数に左右される。本研究が扱う東大寺のように、畿内寺社の場合、文書・史料点数は数千点・数万点に及ぶのであって、単純な俯瞰は困難である。このような大規模膨大史料群の構造を俯瞰するための方法の探究が求められることとなるのである。

奈良東大寺に伝来する史料は、まさにこうした大規模史料群の典型である。研究代表者は、これまで東大寺文書に関する史料集である『大日本古文書家わけ 18 東大寺文書』の編纂を担当し、また東大寺図書館所蔵の近世文書あるいは記録・聖教類の調査にも携わった。そこで得られた知見を手がかりに、史料群全体の構造・法則を解明するための有効な方法論を提示する必要性を認識するにいたった。

と同時に、これまでの経験・知見に基づき以下のような感触を得ていた。なかば常識といてよいであろうが、大規模史料群は、いくつかのユニット（史料の「かたまり」）の集合体として、現代まで伝来している。いくつかのユニットごとの分析を行いそこから仮説を導き出す。さらに他のユニットに適用し、検証・再構築するという、実践的な繰り返しが必要である。そのような繰り返しを通して、史料群全体の構造を明らかにすることが、有効な方法として想定できるだろう。

2. 研究の目的

東大寺文書は、近代の段階で整理が施されており、原秩序は破壊されている。とは言え近代なりの論理的な秩序があり、そのユニット内を一応の枠組みとして、その枠内で文書を整理し直すことで、東大寺文書全体を貫通する原秩序の断片と、断片相互の関係、つまり切り取られた関係構造が明らかとなる。

本研究では、東大寺図書館所蔵東大寺文書のうち、燈油田・大湯屋田関連史料をひとつのモデルケースとした。これについては、東大寺図書館所蔵東大寺文書（未成巻文書）のうち、主に第1部第17「燈油田及大湯屋田」として、まとめて分類されている。その他、未成巻文書内の他の整理部分や、未成巻文書以外の整理（例えば成巻文書など）にも燈油田・大湯屋田関連史料は所在する。

この他に、中世前期・後期という時期的な拡がりがある点、また寺内組織関連文書、複数の荘園関連文書から、個々の料田の権利証文まで多様な内容の文書を含んでいる点など、その多様性から、モデルケースとするには最適なユニット（史料の「かたまり」）である。

本研究は、この燈油田・大湯屋田関連史料の、現状の整理の分析を通して、どの程度まとまっているか、あるいは分散しているか、

さらには近代の整理過程における編成替えなどを見極める。その上で、中世本来の伝来状態について復元を試みる。同時に、その原秩序復元の鍵となる史料群構造化要素を明確化する。また『大日本古文書家わけ 18 東大寺文書之 21』において、その成果を反映させる。

東大寺文書の史料論として、現状において研究が立ち後れているのは、中世後期の問題である。そもそも中世後期の東大寺史そのものについても、なお不明な部分も多いのである。そこで、本研究は中世後期の東大寺史の究明についても副次的な目的とする。

3. 研究の方法

- (1) 柱となる第1部第17「燈油田及大湯屋田」について、東大寺図書館所蔵の燈油田関連史料について、同図書館の協力を得て、カラーマイクロからデジタルイメージ化した。さらにそれを元に、文書を翻刻した。
- (2) 第1部第17「燈油田及大湯屋田」以外に東大寺図書館所蔵史料中に所在する燈油田大湯屋田関連史料を網羅的に収集した。さらに東大寺文書は、明治以降、東大寺外に流出した文書が多数あり、それらについての収集も行った。
- (3) 東大寺文書中には、文書料紙の剥離によって、分離された文書が多数存在し、そのことが、史料の精確な理解のための大きな障害となっている。これについて、デジタルイメージデータを利用して、他の文書との接続可能性を追究した。具体的には、糊跡・虫食い穴などに着目した。さらに、デジタルイメージでは再現できない情報に十分に配慮し、原本調査により接続の可否を確定した。
- (4) 同時代に作成された文書目録は、史料群全体の構造を考える上で、鍵となる史料である。中世東大寺の場合、東大寺学侶集団全体の代表である年預五師が、年度替わりの交替時作成する文書勘渡帳がある。この文書勘渡帳は、鎌倉後期から室町中期の重要な文書目録であり、その翻刻と対照作業を行った。

4. 研究成果

- (1) 『大日本古文書家わけ 18 東大寺文書之 21』を出版した。第1部第17（燈油田及大湯屋田）は、これまで未翻刻の文書が多数含まれており、また発給者・発給年についても、なお検討の余地を多分に残していた。今回の編纂・刊行によって、あわせて約15点の前欠・後欠文書について、接続文書を発見することができた。第1部第17には大和地域の文書が多く、大和の中世史を探究する上で、基礎となる史料を追加することができた。

(2)第1部第17の燈油田関係文書は、いくつかの段階による固まりがあり、それぞれの関連する組織に注目することで、文書の作成・伝来が見通せることが明らかとなった。以下の通りである。

①院政期は、東大寺別当配下の燈油目代が管轄する御油荘関連の文書がある。東大寺三綱申状の下書きが残されることから、この時期のものは、古代以来の執務組織である三綱系のものである。

②鎌倉前期・中期は寄進状が多い。これらは東大寺惣寺の文書を管理する印蔵に保管された。広い意味では院政期の段階と同じである。なお燈油田の寄進状は、この時期のものと、室町後期のふたつの山のあることが確認される。

③鎌倉後期からは、異なる様相を呈する。この時期も、燈油目代発給文書の土代などが残り、依然として三綱系と見られるものがある、しかし多くはない。大勧進・寺内戒壇院の系列に属する燈油聖作成の下書きあるいは燈油聖宛の文書が多くなる。戒壇院伝来文書とすべきである。戒壇院伝来文書の特徴としては、実際の経営に関わる収支関連文書が見えることである。三綱系・戒壇院系とならび、惣寺・年預五師系と考えられる年預五師作成の下書きも存在する。つまり第1部第17の燈油田関係文書には、伝来系統の異なる2つないし3つの文書が混在しているのである。近代における東大寺文書の整理とは、旧来の伝来のありようを、横断的に編成し直したことが明瞭にうかがえるのである。

④南北朝期後半から室町中期の文明年間頃までは、戒壇院系統のものが大部分を占めている。ただし燈油田そのものの経営文書は応永年間(1394~1427)を最後になくなると思われる。その後の時期のものは、実は燈油田とは直接関わらない戒壇院系の油倉宛の文書などである。このタイプの油倉関連文書は、文安・享徳・寛正・文正年間(1444~66)のものが、本第1部第17のみならず、たとえば第1部第13大部荘など、未成巻文書内の他の架に納められるものが多数ある。近代の整理によって、本来のかたまりが解体されてしまったのである。

⑤文明年間(1469~87)以後、一時文書が激減する時期があり、永正年間(1504~20)より再び出現する。惣寺系列の燈油納所あるいは年預五師宛の経営関連文書が存在する。また燈油田寄進文書もこの時期のものが多く残っている。こうした傾向は、他の架においても認められる。永正年間に東大寺は大規模な火災に見舞われ講堂他の堂宇を焼失した、その再建のために全体の経営強化に努めた。そのことの反映かもしれない。

⑥以上、第1部第17の燈油田関係文書では、三綱系・惣寺年預五師系・戒壇院系の3つの伝来文書が、時期的な変化を帯びつつ、整理されている。この他にも未成巻文書の中には、学侶方(たとえば美濃大井荘関連文書など)があったと考えられる。さらに未成巻文書には混在していないが、東大寺宝庫文書には寺内塔頭尊勝院伝来文書が含まれている。これらについての詳細な検討は今後の課題である。さらに本来は存在したが、全く独立して伝来し、さらに焼失・廃棄などによって失われたしまった文書について、その可能性を追究することも今後の課題である。たとえば東南院伝来文書などがさしあたりの検討対象であろう。

(3)史料調査および史料収集の成果を公開した。史料調査については、東大寺図書館所蔵東大寺文書・京都市歴史資料館所蔵燈心文庫(林屋辰三郎氏蒐集文書、重要文化財)・国立歴史民俗博物館所蔵水木家史料・奈良市立史料保存館所蔵史料・大和文華館所蔵双柏文庫所蔵文書(中村直勝氏蒐集文書)などで行った。調査目録は、科研のHPあるいは東京大学史料編纂所のユニオンカタログDBに登録した。このほか、史料編纂所にある東大寺文書関連の写真帳からの史料収集として文書の目録とりも行った。同じユニオンカタログDBに登録した。東大寺図書館所蔵東大寺文書(宝庫文書)、東京大学文学部所蔵、同法学部所蔵、筒井寛秀氏所蔵、水木家資料所蔵、根津美術館所蔵の各分である。

(4)以下の3点の基礎データを科研代表者HPより公開した。①中世東大寺関連文献リスト、②東大寺年預五師文書勘渡帳、③燈油田を含む東大寺文書中の土地権利委譲に関わる文書を集成したリストなどである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

①吉川聡・小原嘉記・遠藤基郎「東大寺大勧進文書集」の研究『南都佛教』査読なし 91号、2008、123~220p

[学会発表](計3件)

①西尾知己 15世紀後期東南院の築瀬荘支配 歴史学研究会中世史部会例会 2010年2月27日 早稲田大学

②西尾知己 応仁・文明の乱と東大寺 東京大学史学会大会 2009年11月8日 東京大学

③遠藤基郎 史料群としての東大寺文書、その成り立ち 国史談話会 2009年度大会(公開講演) 2009年6月13日 東北大学

〔図書〕(計1件)

東京大学史料編纂所 東京大学出版会『大日本古文書 家わけ第十八 東大寺文書之二十一』2011、全388頁

〔その他〕

ホームページ等

http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/endo/2008-10kaken/toyu_index.html

6. 研究組織

(1) 研究代表者

遠藤 基郎 (ENDO MOTOO)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：40251475

(2) 研究分担者：なし

(3) 連携研究者

高橋 敏子 (TAKAHASHI TOSHIKO)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：80151520

久留島 典子 (KURUSHIMA NORIKO)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：70143534

西尾 知己 (NISHIO TOMOMI)

東京大学・史料編纂所・学術振興会特別研究員

研究者番号：20453996